

information

【文化財について】
今治市教育委員会生涯学習課
今治城
河野美術館
☎ 0898-36-1602
☎ 0898-31-9233
☎ 0898-23-3810

【観光情報について】
今治駅前観光インフォメーションセンター
今治地方観光協会
今治市観光課
☎ 0898-36-1118
☎ 0898-22-0909
☎ 0898-36-1541



丹下健三氏が手掛けた建築作品

今治の丹下建築
今治は、世界的な建築家・丹下健三氏と縁が深く、今治市内にはいくつもの丹下建築が残る。市庁舎本館と市民会館、公会堂の3棟は、都市設計も研究していた丹下氏らしく、駐車場を挟んでの字型に配置されている。いずれもル・コルビュゼ建築からの影響を感じさせる作品といわれている。市庁舎別館は、先の3棟と比較すると近代的なデザイン。市庁舎の設計から27年後、73歳となった丹下氏が基本設計を行ったのが今治地域産業振興センター。年代による丹下建築の変化も見どころのひとつである。

丹下健三 Kenzo Tange (1913～2005)
大府府生まれ、日本を代表する世界的な建築家、都市計画家。1987年には建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を日本で初めて受賞した。今治市は父郷の故郷であり、小学校・旧制中学校時代を過ごした。主な代表作に、広島平和記念公園、国立代々木競技場、東京都庁舎、豊川銀行など。今治市名誉市民。

ゆかりの地だけあって
1 今治市公会堂 (1958年)
2 今治市民会館 (1965年)
3 今治市庁舎 本館 (1958年) 第一別館 (1972年) 第二別館 (1994年)
4 今治地域産業振興センター (1985年)
5 旧今治信用金庫本店 (1960年) (現 愛媛信用金庫今治支店)
6 旧今治信用金庫常盤支店 (1967年) (現 愛媛信用金庫常盤支店)

築城の名手「藤堂高虎」が築いた 日本三大水城 今治城跡

今治城
関ヶ原の戦いで功により伊予半国20万石を領した藤堂高虎が、瀬戸内海に面した海岸に築いた大規模な平城で、別名吹揚(ふきあげ)城。慶長7(1602)年に築城開始、方形を基調とする当時では異例の縄張りを施し、海水が引かれた堀や、城内の港として国内最大級の船入を備えた日本屈指の海城であった。寛永12(1635)年より松平(久松)氏の居城となり、海側外郭の大改修を実施。最終的な完成を見た。明治維新後に建造物は全て取り壊されたが、広大な内堀の大部分と主郭部の郭・石垣はほぼ完全に残っており、昭和28(1953)年に愛媛県史跡に指定。昭和55(1980)年以降、天守をはじめとする櫓・門などの再建が進み、雄大な城郭の姿を見せている。

ライトアップした今治城跡
展示室
画像提供：今治地方観光協会

河野美術館収蔵 指定文化財一覧

市指定文化財
有形文化財
絵画
源平合戦図屏風(一の巻・谷島) 後三夜絵巻 信貴山縁起絵巻 西行物語絵巻 平家物語下絵小図絵巻 堀谷文正物語絵巻 雲龍園屏風 雪景山水園屏風 琴棋書園屏風 中国人物園屏風 源氏物語園屏風(須磨・浮舟) 書跡
賦山何建歌 賦阿衣建歌 賦阿衣語連歌 古筆手鑑(巻頭) 相楽朗詠集 玉舟常璫墨跡 典籍
伊勢物語 伊勢物語たり 源氏物語 古今和歌集 新古今和歌集 古今和歌六帖 古今和歌六帖 拾遺和歌集 後拾遺和歌集 連歌秘伝墨 無言抄 源氏物語 話詞和歌集 朝川兩斎等韻問書 堀川院百首

古文書
足利尊氏御教書 足利義満御教書 毛利元就書状 上杉輝虎(謙信)感状 加藤清正領廻行状 羽柴(豊臣)秀吉書状 伊達政宗書状 石田三成書状 室町幕府執事高師直奉書 加藤嘉明書状 北条氏政書状 小早川隆景書状 豊臣氏三奉行連署状 丹羽長重書状 前田利長書状 滝川一益書状 池田光政書状 池田光政書状 朝倉景書状 毛利秀就書状 福島正則知行方目録 福島正則書状 天友宗麟感状 伊達政宗書状 日光寺元信書状 藤堂高虎目録 本多正信書状

源氏物語園屏風(須磨・浮舟)
右隻には光源氏を中心とした。(須磨) 左隻には勾宮を中心とした。(浮舟) 物語の華やかな女性たちを描かない、珍しい作品。

いまばり文化財 MAP Imabari Cultural Properties Map 今治地区

「日本最大の海賊」の本拠地: 芸予諸島

「日本最大の海賊」の本拠地: 芸予諸島
「よみがえる村上海賊『Murakami KAIZOKU』の記憶」
の構成文化財だよ。詳しくは、今治からしまなみ海道を渡って、最初の島「大島」にある、村上海賊ミュージアムに行ってみてね。

日本遺産
「日本最大の海賊」の本拠地: 芸予諸島
「よみがえる村上海賊『Murakami KAIZOKU』の記憶」
戦国時代、宣教師メイス・フロイスをして「日本最大の海賊」と言わしめた「村上海賊」。理不尽に船を襲い、金品を略奪する海賊(ハイレーツ)とは対照的に、舵に従い航海の安全を保障し、瀬戸内海交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城群」、語り受け継がれてきた「伝来資料群」や「伝承文化」、祈り崇められた「神社仏閣」、彼らも見つけたであろう多島美の景色「名勝」、芸予諸島の南北交流の礎ともいえる、越智式と呼ばれる宝篋印塔や五輪塔などの「石造物」など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。今治・尾道をつなぐ芸予諸島ゆけば、急流が渦巻くこの地の利を生かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できる。

来島村上氏

村上通康
村上通康は、芸予諸島の能島、来島、因島に本拠をおいた三家からなり、同じ村上姓を名乗る三家は強い同族意識を持ち、それぞれの領地に多くの「海城」を築き、三家が連携して芸予諸島の航路全域を掌握した。四国側の航路を押さえていた。来島村上氏の初代として位置づけられている通康は、1の来島城を本拠とし、河野氏の重臣で中核を担う存在であった。とりわけ海上交通に関しては来島村上氏が総括する体制であったという。当時の河野氏当主河野正少弼通直が自身の後継者として彼の名前を挙げるほど、その存在は大きかった。永禄10(1567)年に通康が病死し、通康の代になると、これまで関係の深かった河野氏と対立するようになった。天正10(1582)年には、織田信長の調略により、毛利・河野氏から離反。毛利・河野氏と能島・因島村上氏の軍勢に来島城を攻撃された通康は、翌年来島を逃れ羽柴秀吉を頼った。秀吉のもとで通康は、姓を来島と改め、天正13(1585)年、秀吉による四国平定後、風早部一万四千人の豊臣大名となり帰国を果たす。文禄・慶長の役(1592-1598年)で、船手衆として兄の得田通幸と共に参戦するも相次いで戦死。子の康親が当主となる。関ヶ原の合戦(1600年)後は、一万四千里の豊後森藩(現大分県杵臼町)へ国替となり、初代藩主となった。2代藩主通春が「来島」から「久留島」に改姓。久留島家はその後幕末に至るまで藩主として続いた。

【今治城】
開館時間 午前9時～午後5時
観覧料 一般:520円 学生:260円 高校生以下または18歳未満:無料 高齢者(65歳以上):420円 団体割引(20人以上):一般420円、学生210円
休館日 12月29日から12月31日まで・その他展示替など、運営上必要なとき

【河野美術館】
開館時間 午前9時～午後5時
観覧料 一般:310円 学生:160円 団体割引(20人以上):2割引
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は原則翌日振替)・12月29日から翌年1月3日まで
その他展示替など、運営上必要なとき

【野間馬ハイランド】 ☎ 0898-32-8155
開館時間 午前10時～午後5時
料金 入園料、駐車場無料 ※一部有料の施設のご利用はHPでご確認ください。
休館日 毎週火曜日(祝日の場合は原則翌日振替)・年末年始
※園内入場可能ですが、まきば館、乗馬、小動物ふれあいはお休みです。

【公益財団法人 愛媛文華館】 ☎ 0898-32-1063
開館時間 午前10時～午後4時
観覧料 一般:300円 大学生:200円 高校生・中学生:100円 小学生以下無料 団体割引:50円引き
※身体障害者等については、本人及び介護者1名は入館料無料です。
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は原則翌日振替)・夏季・年末年始

【レンタサイクルについて】
一般社団法人しまなみジャパン ☎0848-22-3911
レンタル料金 大人2,000円～ 小学生以下500円
※料金は諸般の事情により変更する場合があります
・中央レンタサイクル(サンライズ系山)
営業時間 午前8時～午後8時
・今治駅前レンタサイクル(i.imabari! Cycle Station)
営業時間 午前8時～午後8時

【今治市文化財マップ区割り図】
大正島・上浦・間瀬地区
今治地区
宇治・宮前・船打地区
東丹・大浦・間瀬地区
五川・朝倉地区

0 500 1000 1500 2000m

凡例
● 文化財
⑦ 国道
⑬ 県道
— 道路
— JR四国(予讃線)
— 高速道路
— 航路

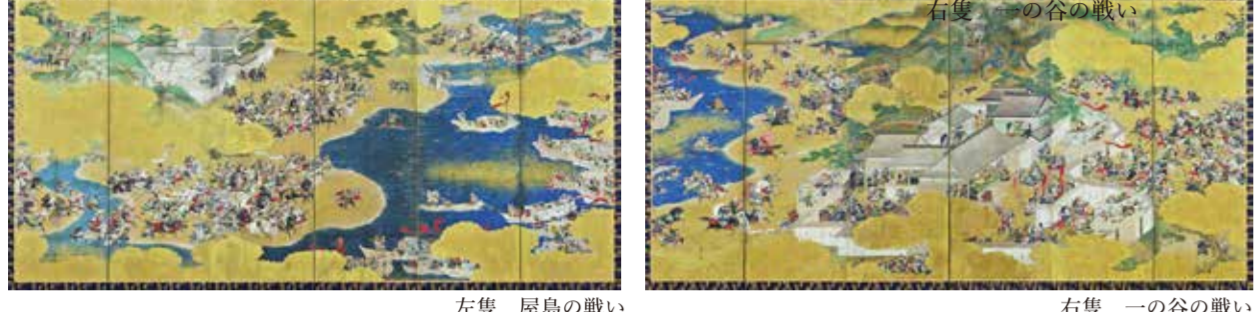
今治市河野美術館

今治市河野美術館は、今治市出身の実業家、故河野信一氏の寄付によるもので、氏が多年にわたりコレクションした文化財を保存し、広く一般に公開し、文化の振興に役立てることを目的として、昭和43年4月に河野信一記念文化館として開館しました。その後、昭和63年4月に一部を改築し、現代美術なども展示できるようにし、その際館名を現在の今治市河野美術館に変更。平安から現代にいたる、俳人・歌人・画家・書家・茶人・僧侶・武將・政治家・文学者など多様な分野で活躍した人物の屏風、掛軸・古文書・典籍など約1万点を収蔵し、その中から館蔵品の常設展、企画展、また現代美術の企画展もおこなっています。



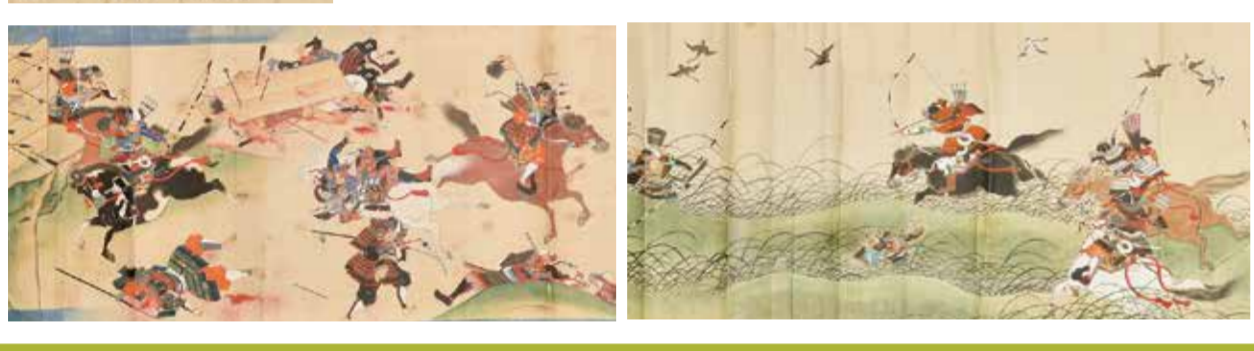
【古文書】羽柴（豊臣）秀吉書状

天正9（1581）年、妻の伯父・杉原七郎左衛門に宛てた自筆の書状。手紙が書かれた当時、秀吉は中国地方の攻略に従軍、現地で寺院建設の資金として、米50石を「めうご寺」へ送るよう求めている。企画展等で公開。



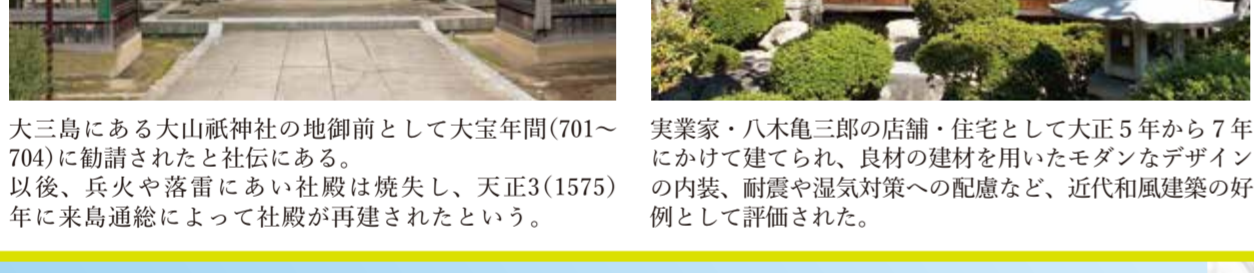
【絵画】源平合戦図屏風（一の谷・屋島）

源平合戦の著名な二つの戦いを描いたもの。右隻に一の谷の戦い、左隻には屋島の戦いを描いた屏風である。右隻に「鶴越の逆落とし」[平政盛の最期]。左隻に「那須与一扇の的」[源義経弓流し]の名場面が描かれている。企画展等で公開。



【絵画】後三年役絵巻

平安後期、奥州に起った内乱で、源義家が清原家衡を滅ぼした戦いを後三年の役といい、この合戦を絵巻にしたものが「後三年役絵巻」である。江戸期には、その模写本が作られた。当館蔵本は、奥書から元禄14（1701）年10月以降に池田家旧蔵本（貞和三年作）[東京国立博物館蔵]を模写した模本であり、精巧で、生々しい戦闘の様子のみならず、描かれている。企画展等で公開。



【建造物】別宮大山祇神社拝殿

大三島にある大山祇神社の地御前として大宝年間（701～704）に勧請されたと社伝にある。以後、兵火や落雷にあい社殿は焼失し、天正3（1575）年に来島通総によって社殿が再建されたという。



【建造物】旧八木商店本店

実業家・八木亀三郎の店舗・住宅として大正5年から7年にかけて建てられ、良材の建材を用いたモダンなデザインの内装、耐震や湿気対策への配慮など、近代和風建築の好例として評価された。



【建造物（石造美術）】宝篋印塔

通称長円寺と呼ばれる庵寺跡に立つ、総高360cmの花崗岩製の宝篋印塔。正中二（1325）年の紀年銘がある。塔身と基礎の間に設けられた中台は、現在のしまなみ海道周辺地域特有の荘厳形式で「越智式」と呼ばれる。



【建造物（石造美術）】野間神社宝篋印塔

総高317cmの花崗岩製の巨大な宝篋印塔。相輪は後補。塔身は四角に金剛界四仏の種子が彫られ、元享二（1322）年の紀年銘がある。塔身と基礎の間に中台を設けた「越智式」の宝篋印塔の一つ。



【建造物（石造美術）】五輪塔（虎庵）

大小2基の五輪塔が一つの基壇上に並んでいることから、地元では戦国期の重茂山城主岡部十郎夫妻の供養塔として祀られている。様式手法から見ると鎌倉時代後期の造りと思われる。



【建造物（石造美術）】石造五輪塔

中山神社裏にある花崗岩製の五輪塔。総高178cm。宍切組の上に練形座を設けた基壇上に立つ。銘文などはないが、鎌倉末期から南北朝に造立されたものとみられる。宅間の地蔵堂組によって祀られている。



【建造物（石造美術）】別宮大山祇神社 理海尼の石灯籠

神前型灯籠。天明3（1783）年11月建立。境内摩利支天宮（現在大穴年産神社の）前である。北新町に住む比呂理海が、弘法大師950年忌の際、当時天門の御饗に苦しむ諸人を救済するため、また永代常夜灯として、この灯籠を建立したものである。



【建造物（石造美術）】五輪塔（馬場）

野間郡馬場のぼぼ中央にある総高233cmの花崗岩製の五輪塔。銘文から嘉暦元年（1326）年に「比呂谷」が「比呂谷」に改称されたことが分かる。平成元年の解体修理の際、地輪部から、「紀氏女」のものと思われる25歳前後の女性の火葬骨が発見されている。

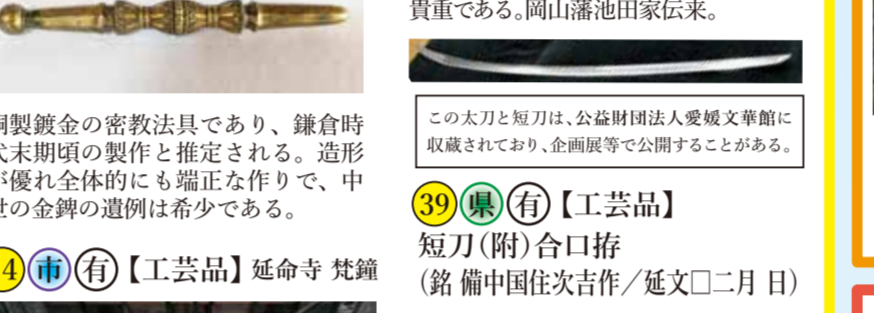
【建造物（石造美術）】五輪塔（馬場）

大祝さんと呼ばれて崇められている。大山祇神社宮司三島（大祝）家の墓所と伝わっている。ほとんどが当地では少い凝灰岩製で、鎌倉時代から室町時代のものである。



【建造物（石造美術）】大祝さんと呼ばれて崇められている。

大祝さんと呼ばれて崇められている。大山祇神社宮司三島（大祝）家の墓所と伝わっている。ほとんどが当地では少い凝灰岩製で、鎌倉時代から室町時代のものである。



【建造物（石造美術）】大祝さんと呼ばれて崇められている。

大祝さんと呼ばれて崇められている。大山祇神社宮司三島（大祝）家の墓所と伝わっている。ほとんどが当地では少い凝灰岩製で、鎌倉時代から室町時代のものである。



【建造物（石造美術）】大祝さんと呼ばれて崇められている。

大祝さんと呼ばれて崇められている。大山祇神社宮司三島（大祝）家の墓所と伝わっている。ほとんどが当地では少い凝灰岩製で、鎌倉時代から室町時代のものである。



【建造物（石造美術）】大祝さんと呼ばれて崇められている。

大祝さんと呼ばれて崇められている。大山祇神社宮司三島（大祝）家の墓所と伝わっている。ほとんどが当地では少い凝灰岩製で、鎌倉時代から室町時代のものである。



【建造物（石造美術）】大祝さんと呼ばれて崇められている。

大祝さんと呼ばれて崇められている。大山祇神社宮司三島（大祝）家の墓所と伝わっている。ほとんどが当地では少い凝灰岩製で、鎌倉時代から室町時代のものである。

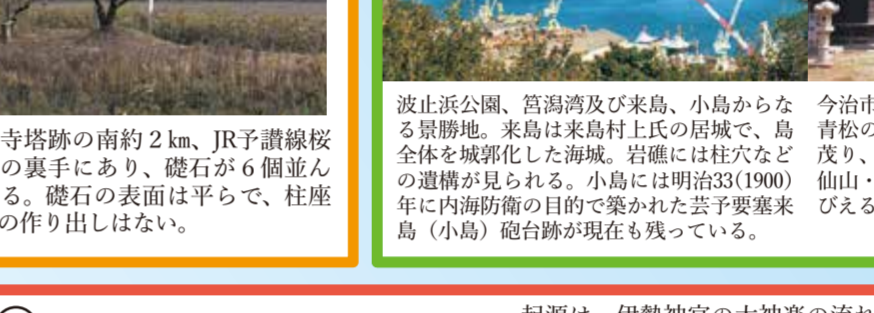
【史跡】伊予国分寺塔跡

馬越にある平野郡の独立丘陵を利用して築かれた古墳。天正7（1579）年の三島大祝越智安任の書記に「小千鶴子御築在馬越邑」とあり、乎致命の墳墓と伝えられている。



【史跡】永納山城跡

今治市と西条市にまたがる7世紀後半頃に築かれた古代山城。城域は全長2.5kmにわたって列石と土塁からなる城壁に取り囲まれている。



【史跡】今治城跡

築城の名手藤堂高虎によって築城された。現存するのは内堀と本丸、二の丸の郭と石垣のみであり、天守や櫓・城門は昭和55年に以降に再建されたものである。



【史跡】今治藩主の墓

今治藩主久松平家の墓所で、今治で亡くなった初代定房・3代定隆・4代定基の3人の藩主が埋葬されている。3基ともに高さ3.6mの立派な墓塔であり、瓦葺きの土塼に囲まれ、参道の両側には藩士たちが奉納した石灯籠が並ぶ。



【史跡】阿方貝塚

県下では数少ない弥生前期の貝塚。出土した土器は、弥生前期土器文化の第三様式に属し、阿方式として瀬戸内地方の土器編年の指標となっている。



【史跡】阿方貝塚

県下では数少ない弥生前期の貝塚。出土した土器は、弥生前期土器文化の第三様式に属し、阿方式として瀬戸内地方の土器編年の指標となっている。

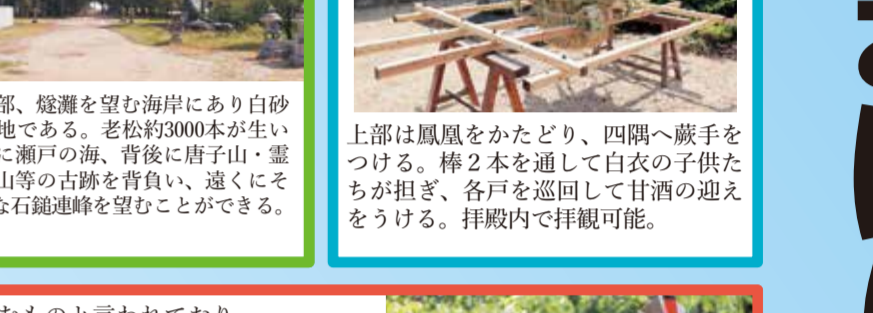
【史跡】阿方貝塚

県下では数少ない弥生前期の貝塚。出土した土器は、弥生前期土器文化の第三様式に属し、阿方式として瀬戸内地方の土器編年の指標となっている。



【史跡】阿方貝塚

県下では数少ない弥生前期の貝塚。出土した土器は、弥生前期土器文化の第三様式に属し、阿方式として瀬戸内地方の土器編年の指標となっている。



【史跡】阿方貝塚

県下では数少ない弥生前期の貝塚。出土した土器は、弥生前期土器文化の第三様式に属し、阿方式として瀬戸内地方の土器編年の指標となっている。



【史跡】阿方貝塚

県下では数少ない弥生前期の貝塚。出土した土器は、弥生前期土器文化の第三様式に属し、阿方式として瀬戸内地方の土器編年の指標となっている。



【史跡】阿方貝塚

県下では数少ない弥生前期の貝塚。出土した土器は、弥生前期土器文化の第三様式に属し、阿方式として瀬戸内地方の土器編年の指標となっている。



【史跡】阿方貝塚

県下では数少ない弥生前期の貝塚。出土した土器は、弥生前期土器文化の第三様式に属し、阿方式として瀬戸内地方の土器編年の指標となっている。

【工芸品】真光寺 金銅密教法具

銅製鍍金の密教法具であり、鎌倉時代末期頃の製作と推定される。造形が優れ金工技術も高く、中世の密教の遺物は希少である。お寺の行事に合わせて公開。



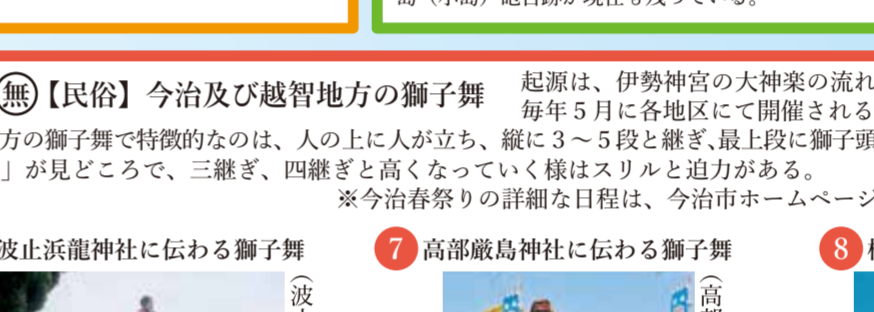
【工芸品】真光寺 銅柄香炉

銅製の柄香炉であり、鎌倉時代末期頃の製作と推定される。造形が優れ金工技術も高く、中世の密教の遺物は希少である。お寺の行事に合わせて公開。



【工芸品】真光寺 金銅金鐸

銅製鍍金の密教法具であり、鎌倉時代末期頃の製作と推定される。造形が優れ金工技術も高く、中世の密教の遺物は希少である。お寺の行事に合わせて公開。



【工芸品】真光寺 太刀（銘一嘉元二年三月日）

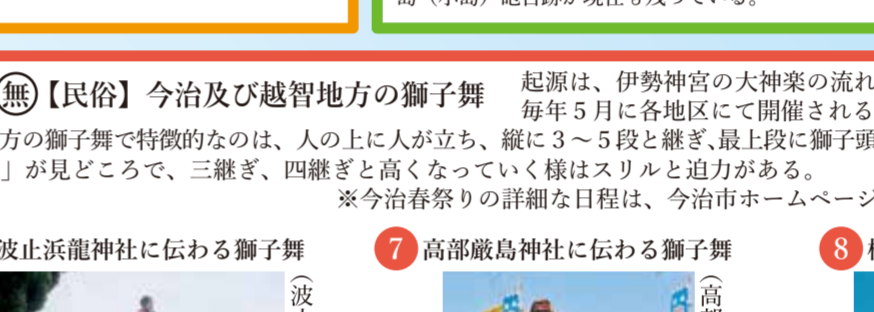
鎌倉時代後期、備前国吉岡一文字派の刀工による作品とみられ、年紀のあるのは貴重である。岡山藩田家伝来。



※ 個人所有や非公開の指定文化財については、所有者の意向により掲載していない文化財があります。

【史跡】伊予国分寺塔跡

馬越にある平野郡の独立丘陵を利用して築かれた古墳。天正7（1579）年の三島大祝越智安任の書記に「小千鶴子御築在馬越邑」とあり、乎致命の墳墓と伝えられている。



【名勝】波止浜

波止浜公園、宮崎湾及び美島、小島からなる景勝地。美島は来島村土氏の居城で、島全体を城郭化した海城。岩壁には柱穴などの遺構が見られる。小島には明治33（1900）年に内海防衛の目的で築かれた芝罘築来島（小島）砲台が現在も残っている。



【名勝】志島ヶ原

今治市の南部、豊後を望む海岸にあり白砂青松の景勝地である。老松約300本が生い茂り、前面に瀬戸の海、背後に唐子山・雲山・世山等の古跡を背負い、遠くに見える雄大な石蓮峰を望むことができる。



【民俗】今治及び越智地方の獅子舞

起源は、伊勢神宮の大神楽の流れを汲むものと言われており、毎年5月に各地区にて開催される春祭りにおいて奉納される。当地方の獅子舞で特徴的なのは、人の上に人が立ち、縦に3～5段と縦ぎ、最上段に獅子頭をかぶった子供が乗る「縦ぎ獅子」が見とく、三継ぎ、四継ぎと高く跳ぶ様子はスリと迫力がある。※今治春祭りの詳細な日程は、今治市ホームページの観光情報をご覧ください。



【民俗】野間神社 獅子舞

上部は鳳凰をかたどり、四隅へ旗子をつける。棒2本を通して白衣の子供たちが担ぎ、各戸を巡回して甘酒の運をうける。押越で押越可能。



【民俗】波止浜龍神社に伝わる獅子舞

波止浜龍神社に伝わる獅子舞（波止浜獅子連中）



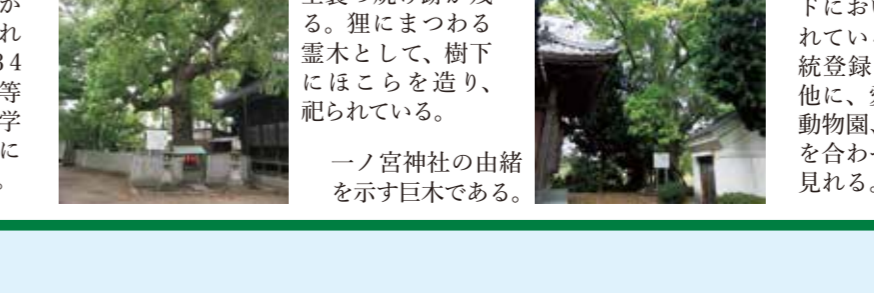
【民俗】高部磯島神社に伝わる獅子舞

高部磯島神社に伝わる獅子舞（高部獅子舞保存会）



【民俗】旭田真名井神社に伝わる獅子舞

旭田真名井神社に伝わる獅子舞（旭田獅子舞保存会）



【民俗】宅間龍神社に伝わる獅子舞

宅間龍神社に伝わる獅子舞（宅間獅子連中）



【民俗】延喜天満宮に伝わる獅子舞

延喜天満宮に伝わる獅子舞（延喜獅子舞保存会）

【民俗】阿方清水天満宮に伝わる獅子舞

阿方清水天満宮に伝わる獅子舞（阿方獅子舞保存会）

【民俗】矢田三島神社に伝わる獅子舞

矢田三島神社に伝わる獅子舞（矢田獅子舞保存会）

【民俗】野間日吉神社に伝わる獅子舞

野間日吉神社に伝わる獅子舞（野間獅子連中）

【民俗】神宮野間神社に伝わる獅子舞

神宮野間神社に伝わる獅子舞（神宮獅子舞保存会）

【民俗】鳥生三嶋神社に伝わる獅子舞

鳥生三嶋神社に伝わる獅子舞（鳥生獅子連中）

【民俗】桜井綱敷天満宮に伝わる獅子舞

桜井綱敷天満宮に伝わる獅子舞（桜井獅子舞保存会）

【民俗】神明神社山車および祭り

神明宮の神明祭りは、火難・悪病除けを祈願して行われ、塩田の繁榮と共に盛んとなり、戦前までは賑やかであった。起源は250年前の元文頃で、明治維新まで各町ごとに山車を競った。

【天然記念物】湿地植物

医王池（通称蛇越池）の東南隅約50haの湿地が、湿地植物の宝庫として指定され保護されている。ここにはサギノクを中心に約70種の湿地植物がよく生育しており、中でもサギノクは、8月上旬から9月中旬にかけて、白サギに似た可憐な花びらをつける。

【天然記念物】大クスノキ

別名部露の中央にあり、越智郡の大領であった越智玉造の墓標として植えられたとの伝承がある。原産地は中国雲南省で、江戸初期に鹿児島に渡来した。大正7（1918）年、国分寺の檀家の村上多四郎が漆器行商中、同地より持ち帰って住職に贈った。県下では数本しかない。

【天然記念物】クスノキ

別宮大山祇神社のクスノキの樹幹には昭和20年8月の空襲の焼け跡が残る。理にまつわる霊木として、樹下に祀らる。一ノ宮神社の由緒を示す巨木である。

【天然記念物】日本在来馬野間馬

野間馬は日本在来の未改良種の馬で、日本で一番小型の馬である。特徴としては、体比べて頭が大きい、たてがみが多い、尻は短く斜尻、寸胴である、尻の骨と足の骨が大きい、蹄が堅く蹄鉄がいらぬ、体高が120cm以下などが挙げられている。小型ではあるが粗食にも耐え、持久力は強い。江戸期より農耕用に使用されていたが、絶滅寸前となり、市では放牧場を作って繁殖に力を入れている。野間馬ハイランドにおいて計46頭が自然放牧で飼育されている。そのうち、野間馬として血統登録されているのは約43頭である。他に、愛媛県立と動物園、東京上野動物園、大阪天王寺動物園など、当国を含む全国9か所の動物園などで見られる。（2023年1月現在）

【天然記念物】クスノキ

別宮大山祇神社のクスノキの樹幹には昭和20年8月の空襲の焼け跡が残る。理にまつわる霊木として、樹下に祀らる。一ノ宮神社の由緒を示す巨木である。

【天然記念物】ウバメガシの樹林

ウバメガシは暖地性の植物で、これだけの大群落は、東予では珍しい。龍神社創建以来の群落で、約300年を経過している。

